

ARCHICAD テンプレートのアップグレード

ARCHICAD 22 から ARCHICAD 23 へ

ワークフローガイド 2019/6



2019/11

VIPservice をご契約の皆様へ

ワークフローガイドシリーズは、BIM ワークフローとプロジェクト管理に関する課題について、推奨されるソリューションを提供するものです。

この「ARCHICAD テンプレートのアップグレードのワークフローガイド」では、社内のひとつまたは複数のテンプレートを ARCHICAD 22 から ARCHICAD 23 にアップグレードする際に確認しなければならない全ての主要な設定と機能の概要を提供します。

この文書は、古いバージョンの ARCHICAD については言及しておらず、またテンプレートの更新プロセスは ARCHICAD 22 から ARCHICAD 23 へのアップグレードとして実施されることを想定したものです。

この文書は、皆様の作業の効率性を支援することを目的に作成されました。ご意見・ご感想などございましたら、下記の VIPservice サイトのサポート項目よりお送りください。

<https://vipservice.graphisoft.co.jp/>



販売特約店および製品情報に関しては、GRAPHISOFT 社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.graphisoft.co.jp/>

ワークフローガイドシリーズ

ARCHICAD テンプレートのアップグレード

ARCHICAD 22 から ARCHICAD 23 へ

(日本語版)

Copyright © 2019 by GRAPHISOFT, all rights reserved. (不許複製・禁無断転載)
事前に書面で明示された許可のない限り、複製、表現の書き換え、翻訳は厳重に禁止されています。

商標

ARCHICAD® は、GRAPHISOFT の登録商標です。その他全ての商標は、各所有者の所有財産です。

製作者一覧

著者

Pantelis Ioannidis - カスタマーサポートサービスチーム、GRAPHISOFT SE

目次

導入	3
1. ライブラリ	3
2. ビュー	4
2.1 デフォルトのビュー	4
2.2 ビューの設定 - モデル表示オプション	4
3. 情報の管理	5
3.1 分類	5
3.2 プロパティ	5
3.3 IFC 変換設定	5
3.4 連動一覧表	6
3.5 要素の移行設定	6
4. ツールのデフォルトとお気に入り	7
4.1 一般	7
4.2 開口ツール	7
4.3 梁 / 柱ツール	7
4.4 スラブツール	7
4.5 マーカー	8
4.6 ラベルツール	8
4.7 手摺りツール	8
5. 属性	9
5.1 一般	9
5.2 材質	9
5.3 ビルディングマテリアル	9
5.4 複雑な断面形状	9
6. ワークフロー	10
6.1 一般	10
6.2 テンプレートファイルの場所	10
6.3 社内 BIM マニュアル	10
付録	11
便利なヘルプセンターのリンク	11
キーワード	11

導入

社内テンプレートは、効率的にプロジェクトを立ち上げ、ワークフローの生産性を高めるために極めて重要です。テンプレートは作業方法の一貫性を確保し、成果物を標準化します。

毎年行われる ARCHICAD のアップデート時に、ARCHICAD の新バージョンにおいて導入される新しい機能に対応するよう、社内テンプレートもアップグレードすることを推奨します。

以下において、既存の ARCHICAD 22 社内テンプレートを ARCHICAD 23 用にアップグレードする際の一連の考慮点が説明されています。

1. ライブラリ

ARCHICAD 23 ライブラリは、ファイルに読み込むべき唯一の ARCHICAD ライブラリです。テンプレート内に移行ライブラリ(ARCHICAD Migration Libraries)を読み込むことは推奨されません。移行ライブラリは、後でプロジェクトを以前の ARCHICAD バージョンから ARCHICAD 23 バージョンにアップグレードする際に追加できます。

埋め込みライブラリは空にしておくようにします。テンプレートファイルにさらにオブジェクトを追加する必要がある場合、社内ライブラリとして ARCHICAD 23 ライブラリと一緒にテンプレートに読み込むことを推奨します。

2. ビュー

2.1 デフォルトのビュー

ビュー一覧において、デフォルトの階層と合致する一般平面図ビューのセットを作成することを推奨します。これにより、必要に応じてユーザーが開始地点に戻ることが容易になります。このようなビューは以下を満たさなくてはなりません：

- 全ての要素と全ての構成要素を表示する（レイヤー、リノベーションステータス、躯体表示等）。
- いかなる上書きも含まない。（リノベーションステータスの上書き、表現の上書き）
- 構成要素の完全な詳細レベルまで表示する。（最も詳細なモデルビューオプションを使用する）
- 全ての要素レベルの設定が上書きされておらず、全ての要素の表示がデフォルトの設定に従っているようにする。

上記の方法に従うことにより、テンプレートを用いて作業を始める新しいユーザーが、要素レベル（例：異なるビルディングマテリアル）で設定を変更したのに視覚的な変更が確認できない、というような状況が起これなくなります。（例えば、表現の上書き設定では全てをベタ塗りの灰色で表示されるため）

2.2 ビューの設定 – モデル表示オプション

柱や梁、スラブ、開口ツールについては、新規に追加されたオプションがあります。エレベーターのオブジェクト詳細レベルについても、新しい設定があります。

- ビュー一覧で保存された全てのビューを確認し、カスタムモデル表示オプションのセットを参照していたビューは更新します。
- 以下を確認することにより、既存のモデル表示オプションセットを更新します：
 - 構造要素オプション：
 - 柱と梁におけるスラブ下の陰線処理の表示（主に構造ビューに関して）
 - 隣接するスラブの表示
 - 開口部のシンボルの表示
 - ライブラリ部品のその他の設定（ARCHICAD LIBRARY 23）
 - エレベーターの表示

3. 情報の管理

3.1 分類

- デフォルトの ARCHICAD 分類 ID は v.2.0 に変更され、IFC4 に従うように再構成されています。(いくつかの新しい分類が追加されました。例: 開口部、梁セグメント、柱セグメント、浴槽、ビデ等) 将来的に大きな変更が加えられない限り(IFC4 では可能性が低い)、バージョン番号は同じまま維持されるため、分類システムとそれに関連するエクスポートとインポートのためのタイプマッピングは、各 ARCHICAD バージョンの間でより容易になります。
- ビルディングマテリアルに関する分類が追加されました。テンプレート内の全てのビルディングマテリアルが正しく分類されているかどうかを確認してください。
- 分類システムをこの時点で更新する場合、ツールのデフォルトとお気に入りを確認し、これらの設定が分類システムに施した変更に従っているかどうかを確認します。
- 全ての梁、柱、開口部のお気に入りを確認し、これらが主要要素及びサブ要素(梁および柱のお気に入りのみに適用される)に対して割り当てられる正しい分類になっているかを確認します。
- https://www.graphisoft.com/downloads/archicad/BIM_Data.html を通じて、外部から読み込まれた全ての分類システムの更新を確認し、必要であればこれらを更新します。
- ARCHICAD 分類 v.2.0 が確実にテンプレートに読み込まれているようにします。ARCHICAD 分類 v.2.0 を手動で読み込むには、デフォルトの ARCHICAD 23 テンプレートからエクスポートし、社内テンプレートにインポートします。

3.2 プロパティ

- 柱と梁セグメントに対して、専用の分類を通じてプロパティを割り当てることができます。
- ビルディングマテリアルに対して、専用の分類を通じてプロパティを割り当てることができます。
- ARCHICAD テンプレートの既存のプロパティを再確認し、梁セグメントや柱セグメント、ビルディングマテリアルに適していると思われる新しいプロパティを追加します。

3.3 IFC 変換設定

ARCHICAD 23 は、IFC 変換設定のタイプマッピングエリアの ARCHICAD 分類 v.2.0 にマッピングされた新しい IFC タイプと事前定義済みタイプによって、IFC4 を完全にサポートします。

- ARCHICAD 22 から維持されている IFC 変換設定は削除し、ARCHICAD 23 のデフォルトテンプレートから全ての IFC 変換設定が社内テンプレートに読み込まれた後、必要に応じて変更することを推奨します。これは以下の方法で実行することが可能です:
 - デフォルトテンプレートで新しい ARCHICAD 23 を開き、そこから PLN ファイルを保存します。
 - ARCHICAD 23 の社内テンプレートに戻り、ARCHICAD 22 から維持されている全ての IFC 変換設定を削除します。
 - [外部ファイルボタンから変換設定をインポート] (IFC 変換設定リストの右下)をクリックし、最初の作業ステップで保存した PLN ファイルを選択して、全ての変換設定をこのファイルから読み込みます。
 - 削除と読み込みは変換プリセットの各種設定・インポート設定・エクスポート設定の順に行います。(設定毎に同じ項目は上書きが可能)
- 社内独自の変換設定が確実に新しい分類システムとプロパティ構成に従っているようにします。これは、変換設定のタイプマッピング及びプロパティマッピングエリアにおいて確認できます。

- 適切な IFC エクスポートのためには、ARCHICAD プロパティがエクスポートされないようにすることが一般的に推奨されています。その代わりに、ARCHICAD プロパティをプロパティマッピングエリアにおいてこれらに対応する IFC プロパティ(これらが存在しない場合は新しい IFC プロパティを作成する)にマッピングし、各変換設定の IFC エクスポートエリアの[データ変換]において、[選択された IFC 変換設定のためにプロパティマッピングで設定されたプロパティのみ] オプションを選択するようにします。

3.4 連動一覧表

新しいバージョンではいくつかのフィールドと基準が新しいものに入れ替えられました。これまで、これらのフィールドは要素に特有のものでしたが、新しいフィールドは[一般]グループ下で利用可能になっています。古いフィールドも ARCHICAD 23 から削除されてはいませんが、古いフィールドの名前には[(ARCHICAD 21)] または [(ARCHICAD 22)]の接尾辞が表示されます。

- 全ての一覧表を確認し、古いフィールドと基準を対応する新しいフィールドと入れ替えます。
- ビルディングマテリアルにおいてプロパティと分類の関連付けが可能になった利点を利用するために、新しい一覧表を作成すること検討します。
- 新しい開口ツールに関連する、新規の一覧表を作成することを検討します。
- ラベルテキストは、フィールドとしては利用できなくなりました。社内テンプレートにある既存の一覧表からこれを削除し、必要であれば要素プロパティに入れ替えます。

3.5 要素の移行設定

開口ツール、梁セグメント、柱セグメントに関する新しいオプションが追加されました。

既存の保存済みの要素移行設定を再確認し、上述のオプションを含めます。

4. ツールのデフォルトとお気に入り

4.1 一般

お気に入りリンクされたライブラリのパーツで欠落しているものはないか、ライブラリロードレポートを確認し、必要であれば、これらのパーツのより新しいバージョンのライブラリパーツを用いて、欠落したパーツを再定義します。お気に入りの直接編集機能は ARCHICAD 20 から導入されているため、ツールのデフォルトを変更し、[再定義] コマンドを使用する必要がありません。

各ツールに少なくとも 1 つの[お気に入り] を保存しておくのは良い実践方法です。(スラブ、床仕上げ、天井等をモデルするスラブツールのように、複数の異なる要素タイプをモデル化するのに用いられるツールの場合には 1 つ以上のお気に入り) 必要であれば新しいお気に入りを確認し、定義します。

4.2 開口ツール

ツールのデフォルトとお気に入りを、要求される通りに設定します。

選択パレット [デザイン] → [接続] から [開口の作成] を開き、デフォルト値を設定します。推奨される値は下記です:

- 開口の形状: 自動
- オフセット: 0
- オリジナル要素を残す: オン
- 近接する開口を結合: オン
- 許容値: 0
- 要素 ID とプロパティ: オリジナルから継承

4.3 梁 / 柱ツール

- セグメント化された梁と柱に関する新しい機能に対応するため、お気に入りを更新するか、新規に作成します。デフォルトの ARCHICAD 23 テンプレートを参照し、確認してください。
- 梁と柱ツールのデフォルトとお気に入り、表面塗りつぶしとペン (ARCHICAD 23 の新機能) を設定します。
- 梁/柱ツールのデフォルトとお気に入り、隠れ線タイプの設定を確認/設定します。
- 梁/柱ツールのデフォルトとお気に入り、表示フロアの設定を確認/設定します。

4.4 スラブツール

スラブツールのデフォルトとお気に入り、隠れ線タイプの設定を設定します。

4.5 マーカー

いくつかのマーカーは、互換性のない形で変更されました。新しいバージョンは以前の機能を全て網羅していますが、これらのマーカーは移行することができません。古いバージョンのこれらのマーカーは移行ライブラリで利用可能であるため、ARCHICAD 23 バージョンにアップグレードされた古い ARCHICAD ファイルは影響を受けません。移行ライブラリは ARCHICAD テンプレートでの使用が推奨されていないため、いくつかのマーカーのデフォルトとお気に入りは再定義する必要があります。

- ARCHICAD 22 バージョンの社内テンプレートを ARCHICAD 23 で開き、ARCHICAD 22 ライブラリを削除して、これを ARCHICAD 23 ライブラリと置き換えます。
- ライブラリレポートを開き、欠落したマーカを特定します。
- 上記のステップで見つかったものを元に、ARCHICAD 23 バージョンの社内テンプレート内で関連するお気に入りを更新し、これに従ってツールのデフォルトを設定します。

4.6 ラベルツール

- 既存の全てのラベルのお気に入りとツールのデフォルトを再確認し、これに従って新規の参照線接続オプション(ボックス全体/1 行目/最終行、上/中央/下接続、下線オン/オフ)を設定します。
- 少なくとも 1 つのお気に入りを新規の開口ラベルのために作成します。
- ビルディングマテリアルにおける分類とプロパティを利用することを目的として、新しい機能に対応するための層リストラベルのお気に入りを更新します。

4.7 手摺りツール

断面形状が適用された手摺り要素は、互換性のない形で変更されました。新しいバージョンは以前の全てのバージョンを網羅していますが、この要素は移行することができません。古いバージョンは移行ライブラリで利用可能であるため、ARCHICAD 23 バージョンにアップグレードされた古い ARCHICAD ファイルは影響を受けません。移行ライブラリは ARCHICAD テンプレートでの使用が推奨されていないため、手摺りツールのデフォルトとお気に入りには再定義する必要があります。

- ARCHICAD 22 バージョンの社内テンプレートを ARCHICAD 23 で開き、ARCHICAD 22 ライブラリを削除して、これを ARCHICAD 23 ライブラリと置き換えます。
- ライブラリレポートを開き、欠落した手摺りの構成要素を特定します。
- 上記の作業ステップで見つかったものを元に、ARCHICAD 23 バージョンの社内テンプレート内で関連するお気に入りを更新し、これに従ってバージョン 23 の断面形状手摺りを使用することにより、ツールのデフォルトを設定します。

5. 属性

5.1 一般

- 属性を変更する予定の場合、変更点に関する包括的なリストを必ず作成するようにします。
- ライブラリのデフォルトは属性インデックス(例: 材質#1 はレンガ)に従っているため、削除箇所、およびこれらが何と置き換えられるかのリストを作成することなしに、属性を削除しないようにします。
- 属性を移動しないようにします。いずれ属性が移動してしまう場合は、ライブラリ内で変更点を追跡するために、変更点のリストが必要になります。
- 属性インデックスの変更を最小限に留めます。このインデックスに変更を加えた場合、GRAPHISOFT 社がライブラリのデフォルトを更新した際に、新しいライブラリが古いバージョンのファイルで動作する方法に影響を与える点に注意してください。

5.2 材質

材質カタログは、CineRender 20 のためにアップデートされました。このため、社内テンプレートにおいては、新しいカタログを使用して材質設定を定義することを推奨します。

- 新しいカタログを用いて、各材質を再定義します。
- 材質インデックスの番号に変更を加えることは避けるようにします。
- 太陽光設定を更新します。新しい材質の内容は、以下の太陽光設定に従い最適化されます:
 - 太陽光のカラー: 255, 255, 255
 - 太陽光: 55%
 - 環境光への影響: 0%
 - 環境光のカラー: 255, 255, 255
 - 環境光: 90%

5.3 ビルディングマテリアル

各ビルディングマテリアルに関する分類とプロパティを設定します。

5.4 複雑な断面形状

梁と柱セグメントは、パラメトリックな断面形状を利用可能です。この新しい梁/柱ツール機能に対応するために、使用可能な既存の断面形状を更新するか、新しい断面形状を作成します。デフォルトの ARCHICAD 23 テンプレートを参照し、確認してください。

6. ワークフロー

6.1 一般

テンプレートファイルのある特定の部分については、新しいバージョンのソフトが提供する新機能を活用するために再度作成するか、変更する必要がある点に注意します。また、これまで使用していた特定のワークフローについては、効率性と生産性を向上させるために、再確認し、変更する必要がある可能性が非常に高いです。

この作業には、ビューやレイアウト、発行セットの共有やリンク、作成の方法を新たにすることが含まれます。

6.2 テンプレートファイルの場所

テンプレートファイルの場所は、プロジェクトチームのメンバーとユーザーの間で決定され、情報共有される必要があります。一方で、全ての過去バージョンのテンプレートはアーカイブ化し、旧バージョンを間違えて使用することを防ぐためにロックします。

テンプレートが BIMcloud サーバー上にある場合、このサーバーに新しいバージョンを必ずアップロードするようにします。

テンプレートファイルを保存するために BIMcloud を使用する場合、全ての旧バージョンのテンプレートファイルをロックするか削除するようにします。

6.3 社内 BIM マニュアル

全ての変更の後、社内 BIM マニュアルに全ての変更点を記載し、必要に応じてプロジェクトの作成方針を更新します。社内 BIM マニュアルが存在しない場合、作成することを推奨します。

6.4 更新されたテンプレートに関するトレーニング

優れたテンプレートも、スタッフがこれをどのように使用するか知らなければ十分ではありません！チームに対して実施された変更点を提示し、新しい機能と異なるワークフローについてスタッフをトレーニングするようにしてください。

付録

役に立つヘルプセンターのリンク

- [1] モデル表示オプション (MVO)
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide/88906/>
- [2] 分類
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide/89272/>
- [3] ビルディングマテリアルに関するプロパティ
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide/88282/>
- [4] 梁ツール
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide-chapter/424>
- [5] 柱ツール
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide-chapter/423>
- [6] 開口ツール
<https://helpcenter.graphisoft.com/jp/user-guide-chapter/462>
- [7] 建築家のワークフローにおける開口ツール(英語)
<https://helpcenter.graphisoft.com/knowledgebase/96815/>

キーワード

テンプレート、テンプレートのアップグレード、ARCHICAD 22、ARCHICAD 23